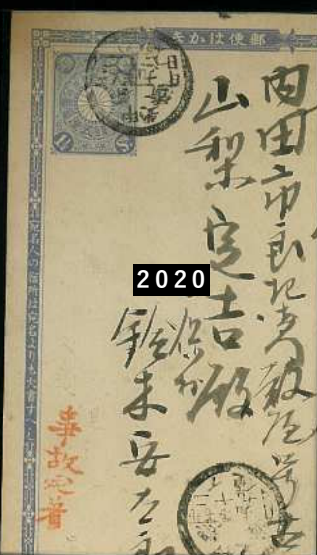
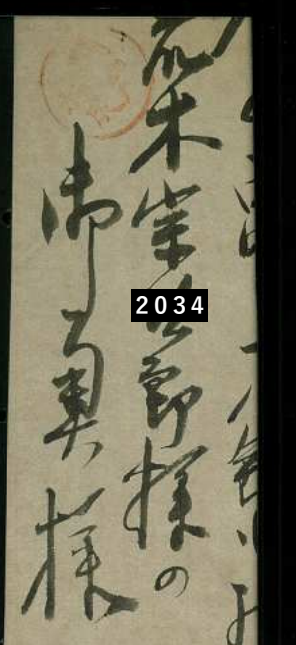






2034



2035

藏
仁權王上白那都熱村平出
罕治獨玄
五月十三日抄出

EX2038

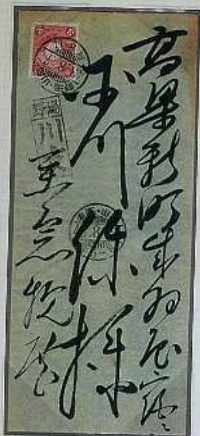
雪文赤
延著
郵便局

Figure H-43. E. G/WA - 800 H-43, D. 1

II. 川支——(3-3)

枠付局名入り黒印「川支」(岡山・湯野)

「十哲図手・事変図」によれば、湯名入りの川文印は全体的に少ないという。阿山重可が高麗川の支流、成川に近く、おそらくこの川に遡来したのでろう。高麗川は阿山系河部を成る一級河川吉井川、旭川とともに鶴山系大河川の一つである。昔からよく沼澤・洪水を起した川であった。



EX2039

III. 川支——(3-4)

丸棒「川支」(局不明)

埼玉・比企郡鹿沼の村である。直仲が不明で、この九葉印を用いた局が不明だが、關東河川としては、荒川が考えられる。巴川の川口印は非常に少ない形式といわれている。「川口印本・事類抄」の解説で、源氏は大正時代の埼玉県早見金村での発見の例を記されている。早見村は八景歌で比企郡・關東する。



III. 川支——(3-2)

枠付き黒印「川」字書き込み「川支延種」(甲斐・上黒駒)



山梨県警視庁警部正・早瀬昭吉の経歴である。矢張り山梨の支庁が確保したのだらう。役員は「川」字平書と合わせて、甲斐国こういった武田タイプが盛んでいたのだ。『小泉組手』事変記」p.11にアヒと鳥居「月夜姫」姫が描かれているが、そのアヒは「月」字に同型をされており、平書が武田タイプではない。(明治28年7月発刊)

このような平書と地味武田タイプは同時代に並ったものかもしれない。

事変同年にこの図のように、ある地域でよく使ったタイプの印が配られる。という図柄が

EX2040

2089



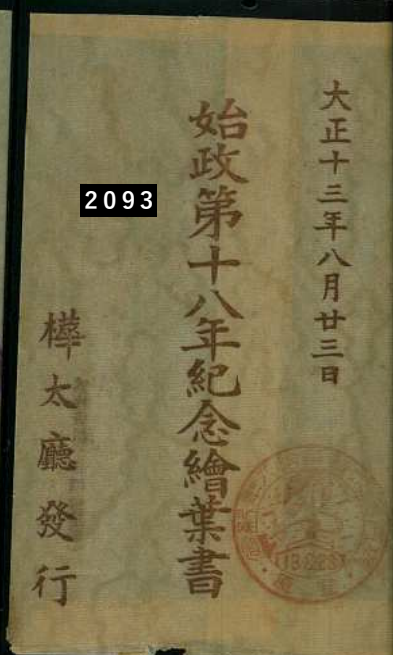
紀位即下隆帝皇國轉

2090



2091

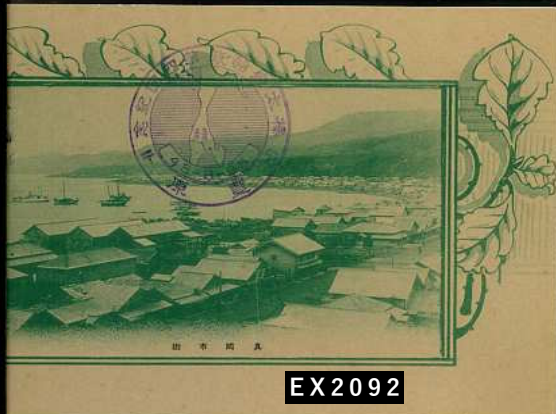
2093



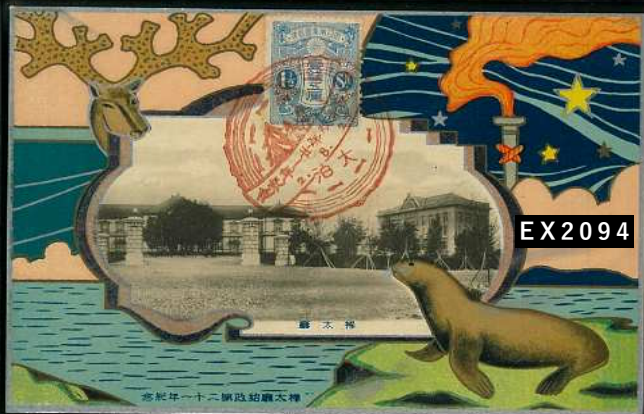
始政第十八年紀繪葉書

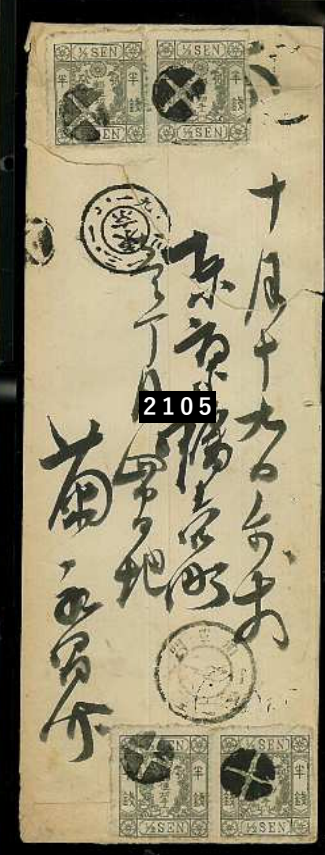
樺太廳發行

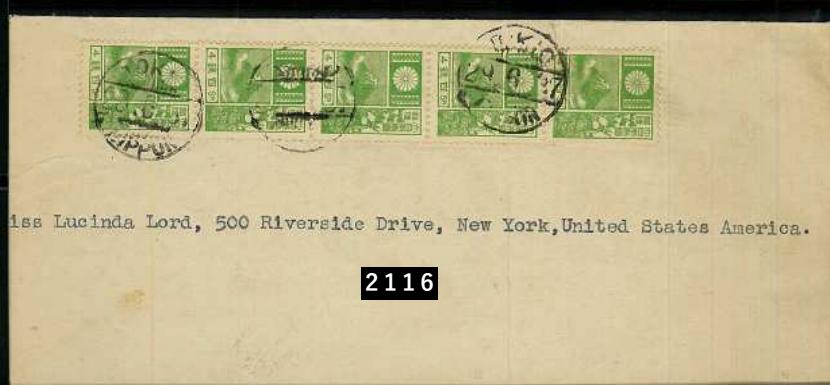
EX2092



EX2094



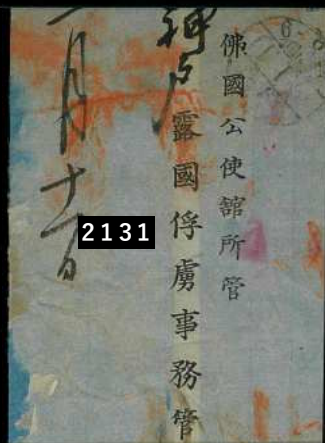








2130



2131



2132



2135



2133



2134



2136



2138



2140



2137



2143



2139



2141



2142



2144



2145



2147



2149



2146



2148



2150



2151



2152



2153



2155



2156



2154